

網走管内ホッケイエビ 発育段階別成長調査

ホッケイエビの資源増大を目指して

特別調査研究推進チーム

網走地区水産技術普及指導所

釧路水産試験場（水産業専門技術員）

網走水産試験場（資源増殖部）

ウトロ漁業協同組合

斜里第一漁業協同組合

湧別漁業協同組合

紋別漁業協同組合

各漁業協同組合ホッケイエビ部会

● 目 的

網走管内におけるホッケイエビの発育段階別の成長を調査し、今後の資源管理のための資料とすることを目的とした。

● 調査方法

ウトロ外海、サロマ湖、コムケ湖の3地区で、5月から11月の期間中に調査時期をできる限り合わせてホッケイエビを採取し、発育段階別に計数後体長と重量を測定し、雌エビについては抱卵状況を観察した。また、各個体の頭胸甲部をつまみ殻の硬度を判定した。脱皮後の回復状況を室内水槽で観察した。

● 成 果

今回の調査結果から、発育段階別の成長は各地区とも、雄期までの成長が最も良い状況であった。（図1）また、脱皮の状況は室内試験から約3日程で回復することが判ったが、期間中には随時脱皮個体が見られたことから、環境よりも各個体の成長毎に脱皮するものと推察された。（図2）

ウトロ外海では、水温が低いことが大きな要因と思われるが（図3）、ふ出時期が他地区よりも遅い状況が見られるものの（図4）、その後、サロマ湖と同様の成長を見せた。

サロマ湖では雌期の成長が停滞する様に見られるが、これは体長9cm以上の個体の漁獲による減少や移動のためと推察された。また、11月になっても未成熟群の中に2cm台の小型の群が見られた。未成熟期には約4cm程度成長することと比較するとあまりに小さいこの群が、後に全体的成長を遅く見せるものと思われた。

コムケ湖では、未成熟期以降成長が非常に良く、11月には当年生まれの未成熟群の中に早熟群も見られた。このように、同じ網走管内でもホッケイエビの成長状況に異なった特色が見られることが判った。

● 展望と課題

今回の調査で発育段階別の出現時期や成長、脱皮出現状況等についてある程度把握できた。しかし、これは単年度だけの状況であるため、今後も各地区の特色を踏まえた上で調査を継続し、資源管理のための資料を充実させることが重要である。

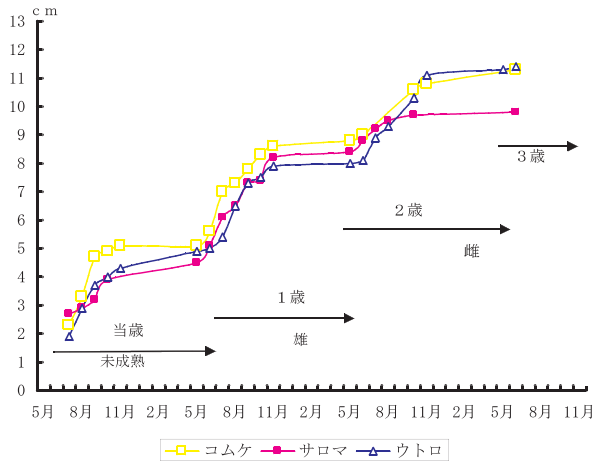


図1 ホッカイエビ地区別・発育段階別成長

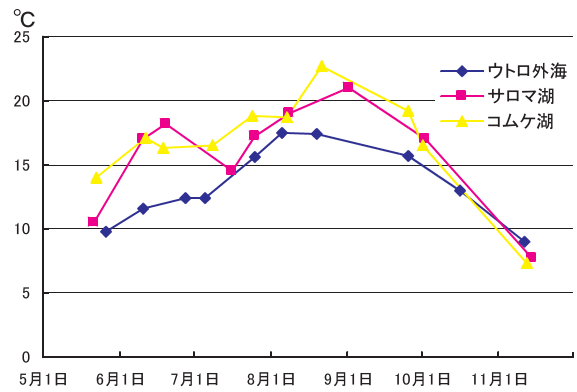


図3 地区別水温

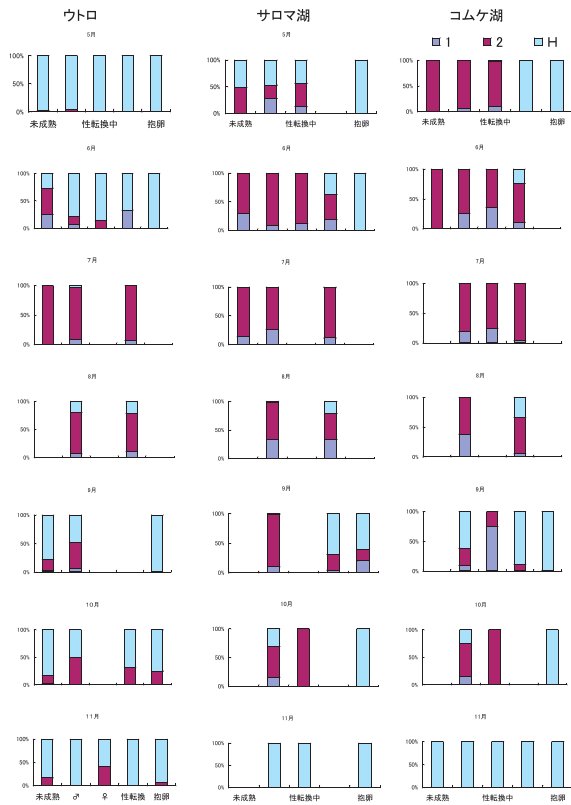


図2 ホッカイエビ地区別・時期別硬度状況

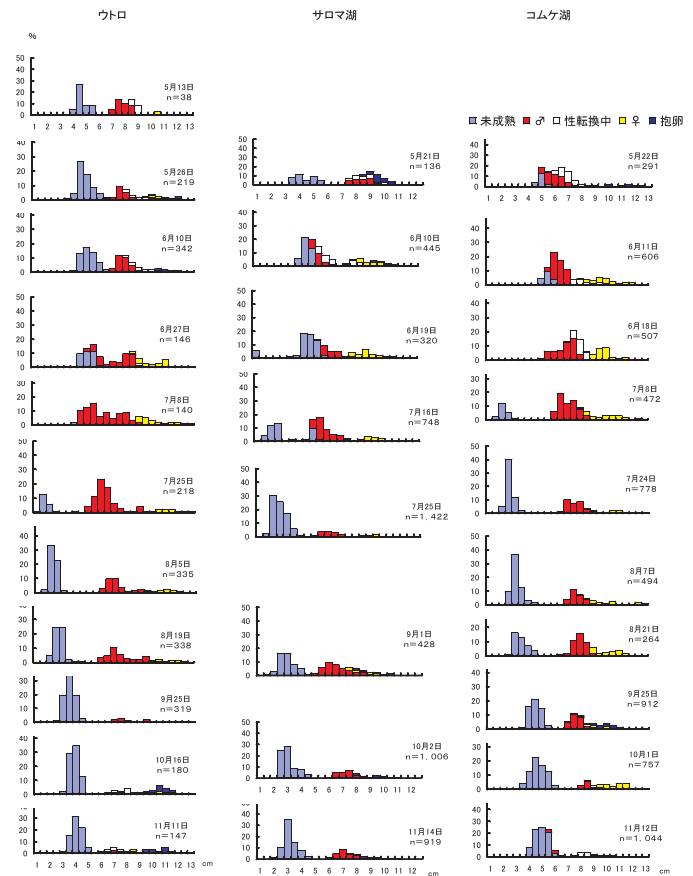


図4 ホッカイエビ発育段階別の出現と体長組成

【連絡先】 網走地区水産技術普及指導所
 住所 紋別市港町7丁目 8-5
 電話 (01582) 3-3057 FAX (01582) 3-3004